

お花で雲浜地区をもりあげよう

7月11日(土) 「寄せ植え教室」

男女共同参について勉強した後、講師に松川知香子先生を迎え、寄せ植えを教えて頂きました。

新型コロナウイルスで外出を控える中、「お花で元気をもらった」と、参加された皆さんはリフレッシュされていました。

また、まちづくり委員の方が地区内をお花で元気づけようとメランポジウム、日々草、コキアを植え、地区内に設置してくれました。



13号台風に因みて

少しのことにも兼好法師は(徒然草の五十二の中)「あらまほしきは、先達者なり」と言われておりますが、私は昭和28年9月25日の13号台風の水の恐ろしさを経験して、この時の思いを河川の辺に住む人々に述べ伝えたいと思いました。

一、 状況を見て早めに避難することだと思います。

住みなれし家を後にして逃げたのは53年前の昭和28年9月25日午前11時のことでした。その日は2、3日前からの雨が降り続いていました。

(故) 夫は外の様子を見回りに行き「川の水の様子が何時もと違う、どんどん増水して橋桁が見えなくなり波打って流れが速い」と言い、「直ぐ避難しよう」と。私はあわてて釜戸所に火をつけて洗米を炊こうと思った途端、下駄を履く間もなく土間に浸水してきました。「あっこれは大変」と思うまもなく、水で自転車は倒れるし下駄は浮いてくるわで、直ぐに2人の子どもと祖母をつれて逃げました。小さな毛布を(唐草模様の)一反風呂敷に包んで背負ったのですが、これが水を吸って重くなり水の中で仰向けになり死ぬかと思いました。その時、運よく首から抜けたので助かりました。(肩にくくりつけていたのです)主人と祖父は「畳を2階に上げる」と言って残りました。

私たち4人は隣の家の前の坂を通り小浜神社に向いました。その時、多田川の水門辺りが決壊し、小浜神社の鳥居の前からすごい勢いで多量の水が流れ込み、元森本製材所の角で水の勢いのため足をとられ歩くこともできず流されかけましたが、そこへ消防団の方が来てロープで助けて下さいました。やっとのことで小浜神社にたどりつきました。

そうしたら市、消防団の方から食料の調達ができないから大手橋のもとで待っているトラックに乗って市役所に避難するよう指示があり、それに従い消防団が張ってくれたロープをたよりに歩きましたが、首まで水があり思うようには歩けません体が思うようになりません。頭を出すのが精一杯でした。どうかたどりつきトラックに乗りましたが、トラックの荷台は避難者で一杯で途中で落ちないかが心配でした。その時には、大手橋欄干まで水がきており橋を洗うような状況になっておりました。運転手の方も危険な状態ですので乗るのをせかされておりました。一番町の通りは水がついており、トラックは水の中を走っておりました。

市役所の講堂に着きましたが、ずぶ濡れでぶるぶる震えました。講堂は避難されてきた方で一杯になりました。

その夜、主人と祖父は小浜神社の「神楽堂」に避難しておりましたが、夜中の2時頃に我が家、工場が流れていくのを見ていたと言っておりました。神楽堂から「南川」の状況を見てみると、人々が助けを求めながら家屋と一緒に流されていくのを見てると忍びなかったが、どうすることもできなかったと言っておりました。その光景はまるで地獄絵図そのもので、その悲しみは今も川を眺める度に忘れることはできません。

7月14日(火)、第1回公民館運営審議会が開催され、今年度の活動計画についてご意見をいただきました。

住民の拠点・交流の場としての公民館をめざしたいところですが、新型コロナウイルスの影響で各種団体、公民館行事が出来ず、悩まされています。

運営審議委員さんには気軽に立ち寄っていただき、公民館職員との意思疎通を大切に、地域の皆さんに親しまれる公民館にしたいと思っています。



このところ、全国各地で水害の報道がされており、小浜市もいつ被害に遭うかが心配です。

今年は新型コロナウイルスという目に見えない敵が加わり、避難所での集団生活の中で感染拡大を防ぐにはどうしたらよいか悩まされます。

自分と家族を守る行動につながる準備をし、防災について地域の方と常に連携を取りあって行きたいですね、

コミュニティ協議会では11月末頃、小浜市生涯学習スポーツ課との共催により防災講座を開催予定です。皆さんの参加をお待ちしています。